

【資料48:実習施設への訪問指導(理学療法学科)】

実習施設への訪問指導を実施する最も多忙な週のスケジュール

《多忙な時期の週間スケジュール》

最も多忙な時期は、前期授業期間と重複する、臨床実習Ⅰの時期である5月下旬を想定している。

期間としては、実習期間における、中間時期の2週間を予定している。

実習施設への訪問指導を実施する教員のスケジュール例を以下に示す。

スケジュール例の教員は、実習指導担当する教員の中でも、最も担当授業科目の多い教員である。

6講義を予定しており、訪問予定の実習施設は、1週間で3施設程度を想定している。

また、訪問指導はそれぞれ学生個々の進捗に合わせて柔軟に追加訪問を実施する。

《訪問指導の対象となる実習の実施期間》

3年次 評価実習:2月上旬~2月下旬

4年次 地域理学療法実習:4月中旬~4月下旬

4年次 臨床実習Ⅰ:5月中旬~6月下旬

4年次 臨床実習Ⅱ:7月中旬~8月下旬

時間	月	火	水	木	金	土	日
I限 9:00 ~ 10:30	移動	講義	講義		移動		
II限 10:40 ~ 12:10	実習施設	移動	講義		実習施設		
昼休み							
III限 13:00 ~ 14:30	移動	実習施設	講義	講義	移動		
IV限 14:40 ~ 16:10		移動			講義		
V限 16:20 ~ 17:50							
18:00							

【資料48:実習施設への訪問指導(理学療法学科)】

実習施設への訪問指導を実施する最も多忙な週のスケジュール (遠隔地の場合)

《多忙な時期の週間スケジュール》

実習施設が遠隔地の場合は、飛行機などの交通機関を利用する。

最も多忙な時期は、前期授業期間と重複する、臨床実習Ⅰの時期である5月下旬を想定している。

期間としては、実習期間における、中間時期の2週間を予定している。

実習施設への訪問指導を実施する教員のスケジュール例を以下に示す。

スケジュール例の教員は、実習指導担当する教員の中でも、最も担当授業科目の多い教員である。

6講義を予定しており、訪問予定の実習施設は、1週間で3施設程度を想定している。

また、訪問指導はそれぞれ学生個々の進捗に合わせて柔軟に追加訪問を実施する。

《訪問指導の対象となる実習の実施期間》

3年次 評価実習:2月上旬~2月下旬

4年次 地域理学療法学実習:4月中旬~4月下旬

4年次 臨床実習Ⅰ:5月中旬~6月下旬

4年次 臨床実習Ⅱ:7月中旬~8月下旬

時間	月	火	水	木	金	土	日
I限 9:00 ~ 10:30	移動 (飛行機)	講義	講義		移動		
II限 10:40 ~ 12:10	実習施設 遠隔地 (沖縄)	移動	講義		実習施設		
昼休み							
III限 13:00 ~ 14:30	移動 実習施設 遠隔地 (沖縄)	実習施設	講義	講義	移動		
IV限 14:40 ~ 16:10		移動			講義		
V限 16:20 ~ 17:50	移動 (飛行機)						
18:00							

48-2 <訪問指導担当教員>

理学療法学科 【4年次】

【臨床実習Ⅰ】

①	柊教授
②	玉利准教授
③	吉村講師
④	吉塚講師
⑤	光武講師
⑥	藤田講師
⑦	谷口助教

月・週 学生	5月				6月					
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
学生1	①	医療法人社団 高邦会 福岡山王病院								
学生2										
学生3										
学生4										
学生5	②	医療法人社団 高邦会 福岡山王病院								
学生6										
学生7										
学生8										
学生9	③	医療法人社団 高邦会 柳川リハビリテーション病院								
学生10										
学生11		社会医療法人 大成会 福岡記念病院								
学生12		医療法人社団 誠和会 牟田病院								
学生13	④	医療法人社団 高邦会 柳川リハビリテーション病院								
学生14										
学生15		医療法人 福岡桜十字 桜十字福岡病院								
学生16		医療法人 ながら医院								
学生17	⑤	医療法人社団 高邦会 柳川リハビリテーション病院								
学生18										
学生19		医療法人 友愛会 友田病院								
学生20		医療法人 貝塚病院								
学生21	⑥	医療法人社団 高邦会 高木病院								
学生22										
学生23		社会医療法人 原土井病院								
学生24		医療法人 聖峰会 聖峰会マリン病院								
学生25	⑦	医療法人社団 高邦会 高木病院								
学生26										
学生27										
学生28										
学生29		日本赤十字社 今津赤十字病院								
学生30		医療法人 永寿会 シーサイド病院								
学生31		社会医療法人財団 白十字会 白十字病院								
学生32		医療法人財団 華林会 村上華林堂病院								
学生33										
学生34										
学生35										
学生36										
学生37										
学生38										
学生39										
学生40										

【資料48:実習施設への訪問指導(作業療法学科)】

実習施設への訪問指導を実施する最も多忙な週のスケジュール

《多忙な時期の週間スケジュール》

最も多忙な時期は、前期授業期間と重複する、総合実習Ⅰの訪問指導の時期である5月中旬を想定している。期間としては、実習期間における、中間時期の2週間を予定している。

実習施設への訪問指導を実施する教員のスケジュール例を以下に示す。

スケジュール例の教員は、実習指導担当する教員の中でも、最も担当授業科目の多い教員である。

4講義を予定しており、訪問予定の実習施設は、1週間で3施設程度を想定している。

また、訪問指導はそれぞれ学生個々の進捗に合わせて柔軟に追加訪問を実施する。

《訪問指導の対象となる実習の実施期間》

2年次 地域理学療法学実習:8月下旬

3年次 検査・測定実習:8月下旬

3年次 評価実習:2月下旬～3月上旬

4年次 総合実習Ⅰ:4月上旬～5月下旬

4年次 総合実習Ⅱ:7月下旬～9月上旬

時間	月	火	水	木	金	土	日
I限 9:00 ～ 10:30		講義	講義	移動			
II限 10:40 ～ 12:10	講義	移動	講義	実習施設			
昼休み		移動					
III限 13:00 ～ 14:30		実習施設		実習施設			
IV限 14:40 ～ 16:10		移動		移動			
V限 16:20 ～ 17:50							
18:00							

48-2 <訪問指導担当教員>

作業療法学科 【4年次】

【総合実習Ⅰ】

①	北島教授
②	丹羽教授
③	多賀准教授
④	松田准教授
⑤	中園講師
⑥	佐野講師
⑦	木村助教
⑧	吉田助教

月・週 学生		4月				5月				6月				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
学生1	①	医療法人社団 高邦会 福岡山王病院												
学生2														
学生3														
学生4														
学生5														
学生6	②	医療法人社団 高邦会 福岡山王病院												
学生7														
学生8														
学生9														
学生10	③	医療法人社団 高邦会 柳川リハビリテーション病院 医療法人 浜江堂 油山病院 医療法人 新光園 鞍手共立病院												
学生11														
学生12														
学生13														
学生14														
学生15	④	医療法人社団 高邦会 柳川リハビリテーション病院 医療法人 せいわ会 みなかぜ病院 医療法人 同仁会 乙金病院												
学生16														
学生17														
学生18														
学生19														
学生20	⑤	医療法人社団 高邦会 柳川リハビリテーション病院 医療法人 人格心会 蒲池病院 医療法人 博仁会 福岡リハビリテーション病院												
学生21														
学生22														
学生23														
学生24														
学生25	⑥	医療法人社団 高邦会 高木病院 医療法人 博仁会 福岡リハビリテーション病院 医療法人 南川整形外科病院												
学生26														
学生27														
学生28														
学生29														
学生30	⑦	医療法人社団 高邦会 高木病院 医療法人 貝塚病院 医療法人 相生会 宮田病院												
学生31														
学生32														
学生33														
学生34														
学生35	⑧	医療法人社団 高邦会 高木病院 医療法人 恵光会 原病院 日本赤十字社 今津赤十字病院												
学生36														
学生37														
学生38														
学生39														
学生40														

【資料48:実習施設への訪問指導(視能訓練学科)】

実習施設への訪問指導を実施する最も多忙な週のスケジュール

《多忙な時期の週間スケジュール》

最も多忙な時期は、前期授業期間と重複する、総合実習Ⅰの訪問指導の時期である5月中旬を想定している。期間としては、実習期間における、中間時期の2週間を予定している。

実習施設への訪問指導を実施する教員のスケジュール例を以下に示す。

スケジュール例の教員は、**実習指導担当する教員の中でも、最も担当授業科目の多い教員**である。

5講義を予定しており、訪問予定の実習施設は、1週間で5施設程度を想定している。

また、訪問指導はそれぞれ学生個々の進捗に合わせて柔軟に追加訪問を実施する。

《訪問指導の対象となる実習の実施期間》

4年次 臨地実習Ⅰ：1月中旬～2月下旬

4年次 臨地実習Ⅱ：第1期 5月中旬～6月下旬 第2期 7月中旬～8月下旬

時間	月	火	水	木	金	土	日
I 限 9:00 ～ 10:30		講義	講義				
II 限 10:40 ～ 12:10		移動	移動		移動		
昼休み					実習施設		
III 限 13:00 ～ 14:30		実習施設	実習施設	移動(新幹線)			
IV 限 14:40 ～ 16:10	講義	実習施設	移動	実習施設	講義		
V 限 16:20 ～ 17:50		移動		移動(新幹線)	講義		
18:00							

【資料48:実習施設への訪問指導(視能訓練学科)】

実習訪問指導を実施する最も多忙な週のスケジュール(遠隔地の場合)

《多忙な時期の週間スケジュール》

実習施設が遠隔地の場合は、飛行機などの交通機関を利用し、場合によっては実習地に宿泊する。

最も多忙な時期は、前期授業期間と重複する、総合実習Ⅰの訪問指導の時期である5月中旬を想定している。期間としては、実習期間における、中間時期の2週間を予定している。

実習施設への訪問指導を実施する教員のスケジュール例を以下に示す。

スケジュール例の教員は、実習指導担当する教員の中でも、最も担当授業科目の多い教員である。

5講義を予定しており、訪問予定の実習施設は、1週間で5施設程度を想定している。

また、訪問指導はそれぞれ学生個々の進捗に合わせて柔軟に追加訪問を実施する。

《訪問指導の対象となる実習の実施期間》

4年次 臨地実習Ⅰ：1月中旬～2月下旬

4年次 臨地実習Ⅱ：第1期 5月中旬～6月下旬 第2期 7月中旬～8月下旬

時間	月	火	水	木	金	土	日
I 限 9:00 ～ 10:30		講義	講義	宿泊施設			
II 限 10:40 ～ 12:10		移動	移動(飛行機)	移動	移動		
昼休み		↓	↓	↓	↓		
III 限 13:00 ～ 14:30		実習施設	実習施設 遠隔地(東京)	実習施設 遠隔地(神奈川)	実習施設		
IV 限 14:40 ～ 16:10	講義	↓	↓	↓	↓		
		実習施設	移動	移動(飛行機)	講義		
V 限 16:20 ～ 17:50		↓	↓		↓		
		移動	↓		講義		
18:00		↓	宿泊施設				

48-2 <訪問指導担当教員>

視能訓練学科 【4年次】

【臨地実習Ⅱ】

①	吉富教授
②	松藤准教授
③	橋本准教授
④	佐々木講師
⑤	潮井川助教

月・週 学生	4月				5月				6月				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
学生1									① 医療法人社団 高邦会 福岡山王病院				
学生2													
学生3													
学生4													
学生5													
学生6													
学生7									医療法人社団高邦会 高木病院				
学生8													
学生9													
学生10									医療法人社団福光会 福田眼科病院				
学生11									② 医療法人社団福光会 福田眼科病院 株式会社麻生 飯塚病院 地域医療支援病院 医療法人聖峰会 医療法人 松井医仁会 大島眼科病院 一般財団法人平成紫川会 小倉記念病院 社会福祉法人恩賜財団済生会 済生会八幡総合病院 地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館 医療法人卓悠会 さが駅前眼科 宮村眼科 医療法人 三島眼科医院				
学生12													
学生13													
学生14													
学生15													
学生16													
学生17													
学生18													
学生19													
学生20													
学生21													
学生22													
学生23													
学生24													
学生25													
学生26													
学生27													
学生28													
学生29													
学生30													
学生31													
学生32													
学生33													
学生34													
学生35													
学生36													
学生37													
学生38													
学生39													
学生40													

【資料49:教育課程と指定規則との対比表(理学療法学科)】

教育課程と指定規則との対比表

(理学療法士学校) (福岡国際医療福祉大学) (医学部理学療法学科)

指定規則の教育内容					別表1 (理学療法士課程)											
					基礎分野		専門基礎分野			専門分野					計	
区分	授業科目	配当年次	単位数			履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	及び心身の発達と機能	ア	基礎理学療法学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学		臨床実習
			必修	選択	自由		14	12	12	2	6	5	20	4	18	93
総合教育科目	心理学	1前	2		15											
	哲学	1・2・3・4前	1		15											
	倫理学	1・2・3・4後	1		15											
	文学	1・2・3・4前	1		15											
	教育学	1・2・3・4後	2		15											
	コミュニケーション概論	1・2・3・4後	2		15											
	海外保健福祉事情 I (講義)	2前	1		15	必修16単位を含む21単位以上を履修(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む)										
	海外保健福祉事情 II (実習)	2・3前・後	2		45											
	アジア比較文化論	1・2・3・4前	1		15											
	法学	1・2・3・4前	1		15											
	経済学	1・2・3・4後	1		15											
	社会学	1・2・3・4前	1		15											
	国際医療福祉論	1・2・3・4後	2		15											
	社会保障制度論	1前	2		15											
	ボランティア論	1・2・3・4後	1		15											
	生物学	1・2・3・4後	2		15		「日本語I」～「日本語IV」は外国人留学生を対象とする必修科目として開講(留学生については「韓国語」「中国語」の履修は要しない)									
	物理学	1・2・3・4前	2		15											
	統計学	1後	2		15											
	医療とICT	1前	2		15											
	生命倫理	1後	2		15											
	人間工学	1・2・3・4前	2		15											
	健康科学理論	1・2・3・4前	1		15											
	健康スポーツ実践	1・2・3・4後	1		30											
	大学入門講座	1前	1		15											
	医学英語 I	1前	1		30											
	医学英語 II	1後	1		30											
	英語 (基礎)	1・2・3・4前	1		30											
英語 (応用)	1・2・3・4後	1		30												
英会話	1・2・3・4後	1		30												
韓国語*	1後	2		30												
中国語*	1後	2		30												
日本語 I	1・2・3・4前	1		30												
日本語 II	1・2・3・4後	1		30												
日本語 III	1・2・3・4前	1		30												
日本語 IV	1・2・3・4後	1		30												
小計					21	0			0							
専門教育科目	解剖学 I	1前	1		30											
	解剖学 II	1後	1		30											
	解剖学実習	1前	1		45											
	生理学 I	1前	1		30											
	生理学 II	1後	1		30											
	生理学実習	1後	1		45											
	病理学	1後	1		30											
	臨床医学概論	1前	2		15											
	公衆衛生学	1・2・3後	2		15											
	リハビリテーション医学	1後	1		30											
	内科学 I	2前	1		30	必修33単位に加え、専門教育科目(専門基礎科目+専門科目)から3単位以上を履修										
	内科学 II	2後	1		30											
	神経学 I	2前	1		30											
	神経学 II	2後	1		30											
	整形外科学 I	2前	1		30											
	整形外科学 II	2後	1		30											
	精神医学 I	2前	1		30											
	精神医学 II	2・3後	1		30											
	小児科学	2前	1		30											
	老年学	2後	1		30											
	人間発達学	1前	2		15											
	臨床心理学概論	2前	2		15											
	救急医学	2・3前	1		15											
	薬理学	1・2・3後	1		15											
	栄養学	1・2・3後	1		15											
	カウンセリング論	1・2・3前	1		15											
	リスクマネジメント論	3前	2		15											
	ケアマネジメント論	1・2・3前	1		15											
	医用画像診断学	3後	1		15											
	運動学 I	1前	1		30											
	運動学 II	1後	1		30											
	運動生理学	2前	1		15											
	運動学実習	2前	1		45											
リハビリテーション概論	1前	2		15												
保健医療福祉制度論	1・2・3前	2		15												
関連職種連携論	2前	2		15												
関連職種連携ワーク	3前	1		30												
小計					0	33			0							

指定規則の教育内容						別表1 (理学療法士課程)										計
						基礎分野		専門基礎分野				専門分野				
区分	授業科目	配当年次	単位数			履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活及び心身の発達	基礎分野	専門基礎分野	基礎理学療法学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学	臨床実習	
			必修	選択	自由											
専門教育科目	理学療法概論	1前	1			15										
	運動解剖学	1後	1			30				○						
	病態運動学	3後	1			30				○						
	物理療法 I	2前	1			30						○				
	物理療法 II	2後	1			30						○				
	PTスキル I 演習(キャリアデザイン)	1後	1			15						○				
	PTスキル II 演習(検査・測定)	2後	1			30						○				
	PTスキル III 演習(障害理解)	3前	1			30						○				
	PTスキル IV 演習(専門知識の確認)	3後	1			30						○				
	理学療法評価学	1後	1			30						○				
	理学療法診断学 I (基礎)	2前	2			30						○				
	理学療法診断学 II (神経診断学)	2前	1			30						○				
	理学療法診断学 III (疾患別評価)	2後	1			15						○				
	理学療法診断学 IV (電気診断学)	2・3後		1		15						○				
	バイオメカニクス	1前	1			15						○				
	動作分析学	2・3後		1		15						○				
	運動療法学総論	2前	2			15							○			
	理学療法治療学総論	3前	1			30							○			
	運動系理学療法学 I	3前	2			30							○			
	運動系理学療法学 II	3後	2			30							○			
	神経系理学療法学 I	3前	2			30							○			
	神経系理学療法学 II	3後	2			15							○			
	高次脳機能障害学	3後		1		15							○			
	代謝系理学療法学	3後	1			15							○			
	循環系理学療法学	3後	1			15							○			
	呼吸系理学療法学	3前	2			15							○			
	癌のリハビリテーション	2・3後		1		15							○			
	装具学	2前	1			30								○		
	義肢学	2後	1			30								○		
	生活環境学	2前	1			15								○		
	生活技術学	2後	2			15							○			
	地域理学療法学	2前	1			15								○		
	福祉住環境論	3前		1		15								○		
	小児理学療法学	2後	2			15							○			
	理学療法技術学	3後		1		15									○	
	先端リハビリテーション科学	3後		1		15									○	
	クリニカルリーズニング	3後		1		15						○				
	産科理学療法学	3前		1		15									○	
	障害者スポーツ概論	2・3前		1		15									○	
	理学療法特論 I (基礎)	4後	1			15							○			
	理学療法特論 II (応用)	4後	1			15							○			
	リハビリテーション管理論	3後	1			15						○				
	基礎実習 I	1前	1			45										○
	基礎実習 II	1後	1			45										○
	検査測定実習	3前	2			45										○
	評価実習	3後	3			45										○
	臨床実習 I	4前	7			45										○
	臨床実習 II	4前	7			45										○
	地域理学療法学実習	4前	1			45										○
	卒業研究 I (研究計画の立案)	3後	2			30						○				
卒業研究 II (研究の実践)	4後	2			30						○					
小計						0	0					67				
卒業要件単位数						124	21	33				67			124	
指定規則に対する増単位数							7	7				14			31	

【資料49:教育課程と指定規則との対比表(作業療法学科)】

教育課程と指定規則との対比表

(作業療法士学校) (福岡国際医療福祉大学) (医学学部作業療法学科)

指定規則の教育内容						別表2 (作業療法士課程)										計
						基礎分野		専門基礎分野			専門分野					
区分	授業科目	配当年次	単位数			履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	及人体の構造と機能	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎作業療法学	作業療法評価学	作業療法治療学	地域作業療法学	臨床実習
			必修	選択	自由		14	12	12	2	6	5	20	4	18	
総合教育科目	心理学	1前	2		15		○									21
	哲学	1・2・3・4前	1		15		○									
	倫理学	1・2・3・4後	1		15		○									
	文学	1・2・3・4前	1		15		○									
	教育学	1・2・3・4後	2		15		○									
	コミュニケーション概論	1・2・3・4後	2		15		○									
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1		15	必修16単位を含む21単位以上を履修	○									
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2・3前・後	2		45		○									
	アジア比較文化論	1・2・3・4前	1		15		○									
	法学	1・2・3・4前	1		15		○									
	経済学	1・2・3・4後	1		15		○									
	社会学	1・2・3・4前	1		15		○									
	国際医療福祉論	1・2・3・4後	2		15	「日本語より2単位以上選択必修含む」	○									
	社会保障制度論	1前	2		15		○									
	ボランティア論	1・2・3・4後	1		15		○									
	生物学	1・2・3・4後	2		15		○									
	物理学	1・2・3・4前	2		15		○									
	統計学	1後	2		15		○									
	医療とICT	1前	2		15		○									
	生命倫理	1後	2		15		○									
	人間工学	1・2・3・4前	2		15		○									
健康科学理論	1・2・3・4前	1		15		○										
健康スポーツ実践	1・2・3・4後	1		30		○										
大学入門講座	1前	1		15		○										
医学英語Ⅰ	1前	1		30		○										
医学英語Ⅱ	1後	1		30		○										
英語(基礎)	1・2・3・4前	1		30		○										
英語(応用)	1・2・3・4後	1		30		○										
英会話	1・2・3・4後	1		30		○										
韓国語*	1後	2		30		○										
中国語*	1後	2		30		○										
日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1		30		○										
日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1		30		○										
日本語Ⅲ	1・2・3・4前	1		30		○										
日本語Ⅳ	1・2・3・4後	1		30		○										
小計						21	0	0								
専門教育科目	解剖学Ⅰ	1前	1		30		○									36
	解剖学Ⅱ	1後	1		30		○									
	解剖学実習	1前	1		45		○									
	生理学Ⅰ	1前	1		30		○									
	生理学Ⅱ	1後	1		30		○									
	生理学実習	1後	1		45		○									
	病理学	1後	1		30		○									
	臨床医学概論	1前	2		15		○									
	公衆衛生学	1・2・3後	2		15		○									
	リハビリテーション医学	1後	1		30		○									
	内科学Ⅰ	2前	1		30		○									
	内科学Ⅱ	2後	1		30		○									
	神経学Ⅰ	2前	1		30		○									
	神経学Ⅱ	2後	1		30		○									
	整形外科Ⅰ	2前	1		30		○									
	整形外科Ⅱ	2後	1		30		○									
	精神医学Ⅰ	2前	1		30		○									
	精神医学Ⅱ	2後	1		30		○									
	小児科学	2前	1		30		○									
	老年学	2後	1		30		○									
	人間発達学	1前	2		15		○									
	臨床心理学概論	2前	2		15		○									
	救急医学	2前	1		15		○									
	薬理学	1後	1		15		○									
	栄養学	1・2・3後	1		15		○									
	カウンセリング論	1・2・3前	1		15		○									
	リスクマネジメント論	3前	2		15		○									
	ケアマネジメント論	1・2・3前	1		15		○									
医用画像診断学	3後	1		15		○										
運動学Ⅰ	1前	1		30		○										
運動学Ⅱ	1後	1		30		○										
運動生理学	2前	1		15		○										
運動学実習	2前	1		45		○										
リハビリテーション概論	1前	2		15		○										
保健医療福祉制度論	1・2・3前	2		15		○										
関連職種連携論	2前	2		15		○										
関連職種連携ワーク	3前	1		30		○										
小計						0	36	0								

指定規則の教育内容						別表2 (作業療法士課程)										計	
教育課程						基礎分野 科学的思考の 基盤	人間と生活 及び 人体の構造と機能	専門基礎分野				専門分野					臨床実習
区分	授業科目	配当年次	単位数					履修方法及び 卒業要件	基礎作業療法学	作業療法評価学	作業療法治療学	地域作業療法学	基礎作業療法学	作業療法評価学	作業療法治療学		
			必修	選択	自由	1単位 当たりの 時間数	14		12	12	2	6	5	20	4	18	93
専門教育科目	作業療法概論	1前	1			15					○						
	作業学概論	1前	1			15					○						
	作業応用論	2・3後		1		30					○						
	卒業研究Ⅰ	3後	2			30					○						
	卒業研究Ⅱ	4後	2			30					○						
	リハビリテーション管理論	3後	1			15					○						
	作業療法総括論	4後	1			30					○						
	作業工程技術学・基礎論	1前	1			30					○						
	作業工程技術学・応用論	1後	1			30					○						
	作業分析学Ⅰ(基礎)	2前	1			30					○						
	作業分析学Ⅱ(応用)	2後	1			30					○						
	生活機能論	2前	1			30						○					
	作業療法評価学概論	2前	1			15						○					
	作業療法評価学各論	2後	1			30						○					
	基礎運動機能評価法	2後	1			30						○					
	高次脳機能評価法	2後	1			15						○					
	作業療法評価学演習	2後	1			30						○					
	作業療法諸理論	2・3後		1		15							○				
	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ(総論)	3前	1			30							○				
	中枢神経疾患作業療法学Ⅱ(各論)	3後	1			30							○				
	中枢神経疾患作業療法学Ⅲ(特論)	3後		1		15							○				
	高次脳機能障害作業療法学	3前	1			30							○				
	老年期作業療法学	3後	1			30							○				
	運動器疾患作業療法学	3前	1			30							○				
	内科系疾患作業療法学	3前	1			30							○				
	精神疾患作業療法学Ⅰ(総論)	3前	1			30							○				
	精神疾患作業療法学Ⅱ(各論)	3後	1			30							○				
	精神疾患作業療法学Ⅲ(特論)	3後		1		15							○				
	小児作業療法学Ⅰ(総論)	3前	1			30							○				
	小児作業療法学Ⅱ(各論)	3後	1			30							○				
	小児作業療法学Ⅲ(特論)	3後		1		15							○				
	作業療法適応学概論	2後	1			15							○				
	コミュニケーション技術論	3後	1			30							○				
	生活技術学Ⅰ(総論)	3前	1			30							○				
	生活技術学Ⅱ(各論)	3後	1			30							○				
	障害代償学概論	2後	1			15							○				
	自助具・福祉機器適用論	3前	1			30							○				
	装具・副子適用論	3後	1			30							○				
	義肢適用論	3後	1			30							○				
	バリアフリー論	2前	1			15								○			
	住環境整備論	3前	1			30								○			
	地域生活作業療法論	2前	1			30								○			
	地域生活支援論	1後	1			15								○			
	職業関連技術学	3前	1			30								○			
	作業療法応用学概論	3後	1			15								○			
基礎実習Ⅰ	1前	1			45									○			
基礎実習Ⅱ	1後	1			45									○			
地域作業療法実習	2前	1			45									○			
検査・測定実習	3前	1			45									○			
評価実習	3後	3			45									○			
総合実習Ⅰ	4前	8			45									○			
総合実習Ⅱ	4前	8			45									○			
小計						0	0	65									
卒業要件単位数						124	21	36	65							124	
指定規則に対する増単位数							7	10	12							31	

【資料49:教育課程と指定規則との対比表(視能訓練学科)】

教育課程と指定規則との対比表

(視能訓練士学校) (福岡国際医療福祉大学) (医療学部視能訓練学科)

指定規則の教育内容						別表1										計		
						基礎分野		専門基礎分野			専門分野							
区分	授業科目	配当年次	単位数			履修方法及び卒業要件	科学的思考の基礎	人間と生活	心身の発達と機能及び	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	視覚機能の基礎と検査機	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎視能矯正学	視能検査学	視能障害学	視能訓練学	臨地実習	
			必修	選択	自由		14	8	8	8	5	10	10	6	10	14	93	
総合教育科目	心理学	1前	2		15													
	哲学	1・2・3・4前	1		15													
	倫理学	1・2・3・4後	1		15													
	文学	1・2・3・4前	1		15													
	教育学	1・2・3・4後	2		15													
	コミュニケーション概論	1・2・3・4後	2		15													
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1		15	必修16単位を含む21単位以上を履修 (「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む)												
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2・3前・後	2		45													
	アジア比較文化論	1・2・3・4前	1		15													
	法学	1・2・3・4前	1		15													
	経済学	1・2・3・4後	1		15													
	社会学	1・2・3・4前	1		15													
	国際医療福祉論	1・2・3・4後	2		15													
	社会保障制度論	1前	2		15													
	ボランティア論	1・2・3・4後	1		15													
	生物学	1・2・3・4後	2		15		「日本語Ⅰ」～「日本語Ⅳ」は外国人留学生を対象とする必修科目として開講(留学生については「韓国語」「中国語」の履修は要しない)											
	物理学	1・2・3・4前	2		15													
	統計学	1後	2		15													
	医療とICT	1前	2		15													
	生命倫理	1後	2		15													
	人間工学	1・2・3・4前	2		15													
健康科学理論	1・2・3・4前	1		15														
健康スポーツ実践	1・2・3・4後	1		30														
大学入門講座	1前	1		15														
医学英語Ⅰ	1前	1		30														
医学英語Ⅱ	1後	1		30														
英語(基礎)	1・2・3・4前	1		30														
英語(応用)	1・2・3・4後	1		30														
英会話	1・2・3・4後	1		30														
韓国語*	1後	2		30														
中国語*	1後	2		30														
日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1		30														
日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1		30														
日本語Ⅲ	1・2・3・4前	1		30														
日本語Ⅳ	1・2・3・4後	1		30														
小計						21												
専門教育科目	解剖学	1前	1		30													
	生理学Ⅰ	1前	1		30													
	生理学Ⅱ	1後	1		30													
	生理学実習	1後	1		45													
	病理学	1後	1		30													
	臨床医学概論	1前	2		15													
	公衆衛生学	1・2・3後	2		15													
	リハビリテーション医学	1後	1		30													
	内科学Ⅰ	2前	1		30													
	内科学Ⅱ	2後	1		30													
	神経学Ⅰ	2前	1		30													
	神経学Ⅱ	2後	1		30													
	精神医学Ⅰ	2前	1		30													
	精神医学Ⅱ	2・3後	1		30													
	小児科学	2前	1		30													
	老年学	2後	1		30													
	視機能概論	1前	1		15	必修35単位に加え、専門教育科目(専門基礎科目+専門科目)から8単位以上を履修												
	視器解剖病態学Ⅰ	1後	1		30													
	視器解剖病態学Ⅱ	3前	1		30													
	生理光学Ⅰ	1前	1		30													
	生理光学Ⅱ	2前	1		30													
	生理光学Ⅲ	2後	1		30													
	視覚生理学Ⅰ	1後	1		30													
	視覚生理学Ⅱ	2前	1		30													
	人間発達学	1前	2		15													
	臨床心理学概論	2前	2		15													
	救急医学	2・3前	1		15													
	薬理学	1・2・3後	1		15													
	栄養学	1・2・3後	1		15													
	カウンセリング論	1・2・3前	1		15													
	リスクマネジメント論	3前	2		15													
	ケアマネジメント論	1・2・3前	1		15													
	リハビリテーション概論	1前	2		15													
	保健医療福祉制度論	1・2・3前	2		15													
関連職種連携論	2前	2		15														
関連職種連携ワーク	3前	1		30														
保育	1後	2		15														
コミュニケーション技術Ⅰ(手話)	1前	1		30														
コミュニケーション技術Ⅱ(点字)	2後	1		30														
小計						0												

指定規則の教育内容						別表1												
教育課程						基礎分野		専門基礎分野					専門分野			計		
区分	授業科目	配当年次	単位数			履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	視覚機能の基礎と検査機	テーションの理念	保健医療福祉とリハビリ	基礎視能矯正学	視能検査学		視能障害学	視能訓練学
			必修	選択	自由									1単位当たりの時間数	14	8	8	8
専門教育科目	視能矯正学Ⅰ	2前	2			30							○					
	視能矯正学Ⅱ	2前	2			30							○					
	視能矯正学総括論Ⅰ	3後	1			15							○					
	視能矯正学総括論Ⅱ	4後	1			30							○					
	視覚情報処理論Ⅰ	2後	1			30							○					
	視覚情報処理論Ⅱ	3前	1			30							○					
	視覚情報処理論Ⅲ	3後		1		30							○					
	視覚と注意	3後		1		30							○					
	眼科診療学	3後	1			15							○					
	卒業研究Ⅰ	3前	2			30							○					
	卒業研究Ⅱ	4後	2			30							○					
	視能矯正学特論	3前		1		15							○					
	視能検査学入門	1前		1		15								○				
	視能検査学基礎	1後	1			30								○				
	視能検査学Ⅰ	2前	2			30								○				
	視能検査学Ⅱ	2後	2			30								○				
	視能検査学Ⅲ	2後	2			30								○				
	視能検査学Ⅳ	2後	2			30								○				
	屈折矯正の実際	3前	1			15								○				
	視覚と画像解析	3前	1			15								○				
	視能検査学総合演習Ⅰ	3前	1			30								○				
	視能検査学総合演習Ⅱ	4前	1			30								○				
	視能検査学特論	3前		1		15								○				
	視能障害学Ⅰ	2前	1			30									○			
	視能障害学Ⅱ	2前	1			30									○			
	視能障害学Ⅲ	2後	1			30									○			
	視能障害学Ⅳ	3前	1			30									○			
	視能障害学評価学	3前	1			30									○			
	研究と文献Ⅰ	3前	1			15									○			
	研究と文献Ⅱ	3後		1		15									○			
	視覚と高次脳	3後	1			30									○			
	視能障害学実践演習	3後	1			30									○			
	視能障害学特論	3前		1		15									○			
	弱視斜視論基礎	2前	1			15										○		
	弱視斜視論Ⅰ	2後	1			30										○		
	弱視斜視論Ⅱ	2後	1			30										○		
	弱視斜視論Ⅲ	3前	1			15										○		
	弱視斜視論Ⅳ	3後	1			15										○		
	視能訓練学Ⅰ	2後	1			30										○		
	視能訓練学Ⅱ	2後	1			30										○		
	視能訓練学Ⅲ	3前	1			30										○		
	ロービジョン学	3前	1			30										○		
	視覚とヴァーチャルリアリティ	3後		1		30										○		
	視能訓練学総合演習	4前	1			30										○		
	視能訓練学特論	3後		1		15										○		
臨地実習Ⅰ	3後	5			45											○		
臨地実習Ⅱ	4前	11			45											○		
小計						0	0						60					
卒業要件単位数						21	35						60					124
指定規則に対する増単位数						7	6						10					31

【資料50:臨床・臨地実習計画(理学療法学科)】

理学療法学科 臨地実習計画

月	1年次	2年次	3年次	4年次
4月	基礎実習 I		検査測定実習	地域理学療法実習
5月				臨床実習 I
6月				
7月				
8月				臨床実習 II
9月				
10月	基礎実習 II			
11月				
12月				
1月				
2月			評価実習	
3月				
	<基礎実習 I > 実習期間:1週間(45時間) 実習者数:40人を予定 単位数 :1単位		<検査測定実習 > 実習期間:2週間(90時間) 実習者数:40人を予定 単位数 :2単位	<地域理学療法実習 > 実習期間:1週間(45時間) 実習者数:40人を予定 単位数 :1単位
	<基礎実習 II > 実習期間:1週間(45時間) 実習者数:40人を予定 単位数 :1単位		<評価実習 > 実習期間:3週間(135時間) 実習者数:40人を予定 単位数 :3単位	<臨床実習 I > 実習期間:7週間(315時間) 実習者数:40人を予定 単位数 :7単位
				<臨床実習 II > 実習期間:7週間(315時間) 実習者数:40人を予定 単位数 :7単位

【資料50:臨床・臨地実習計画(作業療法学科)】

作業療法学科 臨地実習計画

月	1年次	2年次	3年次	4年次
4月	基礎実習 I			総合実習 I
5月				
6月				総合実習 II
7月				
8月		地域作業療法実習	検査・測定実習	
9月	基礎実習 II			
10月				
11月				
12月				
1月				
2月			評価実習	
3月				
	<基礎実習 I・II> 実習期間:1週間2回 90時間 実習者数:40人を予定 単位数:2単位	<地域作業療法実習> 実習期間:1週間1回 45時間 実習者数:40人を予定 単位数:1単位	<検査・測定実習> 実習期間:1週間1回 45時間 実習者数:40人を予定 単位数:1単位 <評価実習> 実習期間:3週間1回 135時間 実習者数:40人を予定 単位数:3単位	<総合実習 I・II> 実習期間:8週間2回 720時間 実習者数:40人を予定 単位数:16単位

【資料50:臨床・臨地実習計画(視能訓練学科)】

視能訓練学科 臨地実習計画

月	1年次	2年次	3年次	4年次
4月				
5月				臨地実習Ⅱ
6月				
7月				
8月				
9月				
10月				
11月				
12月				
1月			臨地実習Ⅰ	
2月				
3月				
			実習期間:6週間2回 225時間 実習者数:40人を予定 単位数:5単位	実習期間:6週間2回 495時間 実習者数:40人を予定 単位数:11単位

【資料51:アジア諸国の高齢化の進展】

○アジア各国における生産年齢人口比率の推移

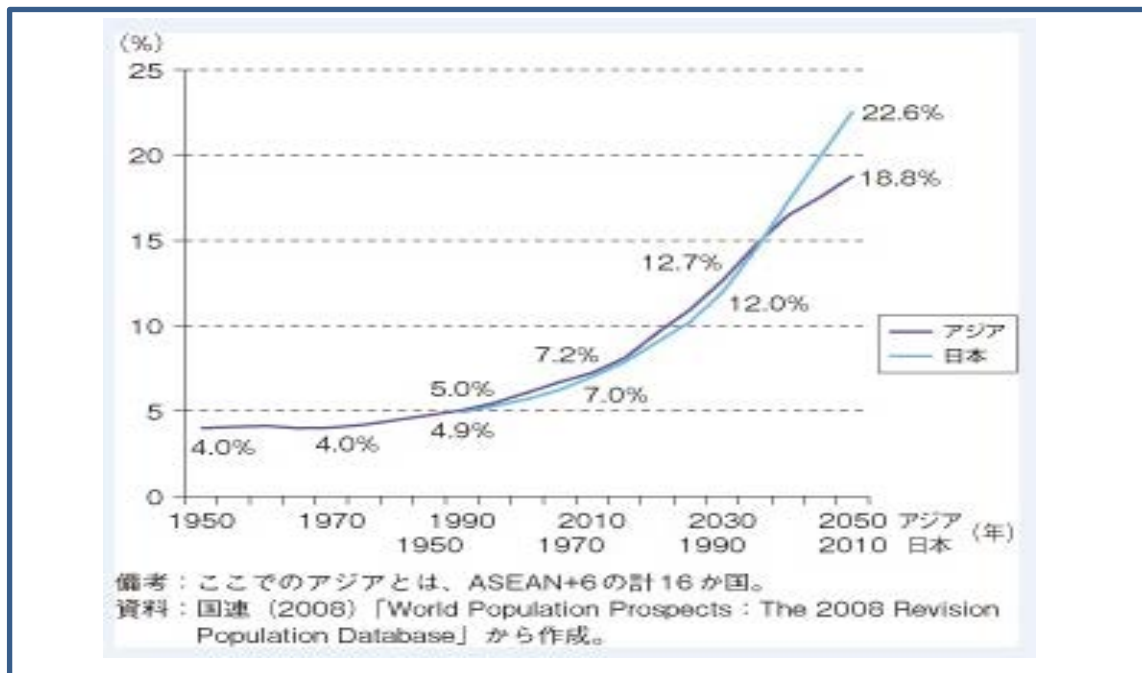
(出所:経済産業省)
(単位:%)

西暦	日本	中国	インド	韓国	豪州・ニュー ジーランド	ASEAN	アジア全体
1950	59.7	62.0	59.4	54.6	64.7	57.7	60.3
1955	61.2	58.3	57.8	56.3	62.1	56.9	58.1
1960	64.0	56.3	56.2	55.4	60.9	55.1	56.6
1965	68.0	55.4	55.0	53.6	61.4	53.4	55.8
1970	68.9	56.0	55.8	54.6	62.3	53.2	56.3
1975	67.8	56.1	56.6	58.4	63.3	54.0	56.7
1980	67.4	59.8	57.1	62.2	64.8	55.3	58.7
1985	68.1	64.2	57.6	65.6	65.9	57.3	61.2
1990	69.7	66.1	58.3	69.4	66.6	59.3	62.7
1995	69.6	66.4	59.3	71.1	66.3	61.1	63.3
2000	68.2	67.5	60.7	71.8	66.6	63.3	64.5
2005	66.3	70.4	62.3	71.6	67.2	65.2	66.5
2010	64.2	71.9	64.3	72.8	67.1	67.0	68.0
2015	61.3	71.5	65.9	73.0	65.9	68.0	68.4
2020	59.9	69.6	67.0	71.2	64.5	68.4	68.1
2025	59.3	68.6	67.9	67.8	63.1	68.3	67.9
2030	58.4	67.2	68.8	64.2	61.8	67.8	67.6
2035	56.7	65.0	69.5	60.9	61.0	67.0	66.8
2040	53.8	63.0	69.6	58.0	60.3	66.2	65.8
2045	52.1	62.3	69.0	56.3	60.1	65.3	65.2
2050	50.9	61.4	68.0	54.4	59.7	64.4	64.3

備考:ここでのアジアとは、ASEAN+6の計16か国。

資料:国連(2008)「World Population Prospects, The 2008 Revision」から作成。

○アジア各国における高齢者比率の推移



【資料52:学術交流協定提携予定機関一覧】

○本学 福岡国際医療福祉大学

国・地域別	種別	協定先	協定先の概要	各機関の分類		
				①語学	②医療	③福祉
中国	機関	中国リハビリテーション研究センター (China Rehabilitation Research Center) 北京市	中国初のリハビリテーション研究センター、病院 JICA「リハビリテーション専門職養成プロジェクト」等提携機関	○	○	
韓国	大学	建陽大学校 (Konyang University) 忠清南道論山市大字路119	総合大学-医学部、看護学部、作業療法科、放射線科等 附属病院を併設	○	○	○
台湾	大学	元培醫事科技大学 (Yuanpei University) 新竹市香山区元培街306号	医療関連の技術発展を目的に創設された私立科技大学 医療技術学科、医事工学科、看護学科等	○	○	
ベトナム	大学	ホーチミン市医科薬科大学 (University of Medicine and Pharmacy, Ho Chi Minh City) ホーチミン市	公立大学-医学部、薬学部、看護医療技術学部等 病院併設 JICA 科学的根拠に基づく保健医療サービス向上のための人材育成提携機関		○	
	病院	国立チョーライ病院 (Cho Ray Hospital) 201B Nguyen Chi Thanh St. Dist.5, HCMC ホーチミン市	ベトナム南部最大の巨大病院(約1800床) JICA 地域リハビリテーション及び身体障害者支援事業等 提携多数		○	
ミャンマー	大学	ヤンゴン医療技術大学 (University of Medical Technology, Yangon) ヤンゴン市	理学療法学、義肢装具学、臨床検査学、放射線技術科学 JICA リハビリテーション強化プロジェクト提携機関		○	
	病院	国立リハビリテーション病院 (National Rehabilitation Hospital) ヤンゴン市	1958年設立、国際赤十字義肢装具施設、障害者職業訓練所・障害者学校隣接 JICA リハビリテーション強化プロジェクト提携機関		○	○
モンゴル	大学	国立モンゴル医科大学 (Mongolian National University of Medical Sciences) ウランバートル	モンゴル唯一の医療系国立大学 JICA 教育病院運営管理・医療サービス提供体制確立プロジェクト提携機関		○	
シンガポール	機関	シンガポール工科大学 (Singapore Institute of Technology) 10 Dover Drive, Singapore 138682	約4,000名の学生が在籍する2009年創立の国立大学。医療関連では理学療法、作業療法、放射線、看護等の学科を有する。	○	○	○

*10か所につき、各所30名を限度として受け入れ承諾を得ている。

【資料 53：海外臨床実習施設の受入承諾書（写）】

【資料 52：学術交流協定提携予定機関一覧】全協定先の受入承諾書（写）を添付した。

【資料 54:FD委員会規程(案)】

福岡国際医療福祉大学 FD委員会規程 (案)

(設置)

第1条 福岡国際医療福祉大学学則第15条に基づき、本学にFD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本学の定める教学の基本方針にしたがい、教育法の改善及び教員の資質の向上などFD（ファカルティ・ディベロプメント）に関して討議を行い、より質の高い教育方法の推進を図るものとする。

(委員会の構成)

第3条 委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学部長の意見を聴いて学長が指名する各学科の専任教員
- 二 学長が指名した者
- 三 理事長が推薦した者

2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の中から学長が指名する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(委員会の成立)

第5条 委員会は、過半数の委員の出席により成立する。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務処理)

第7条 委員会の事務は、事務部教務課が取り扱う。

(雑則)

第8条 委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て学長が別に定める。

(改廃)

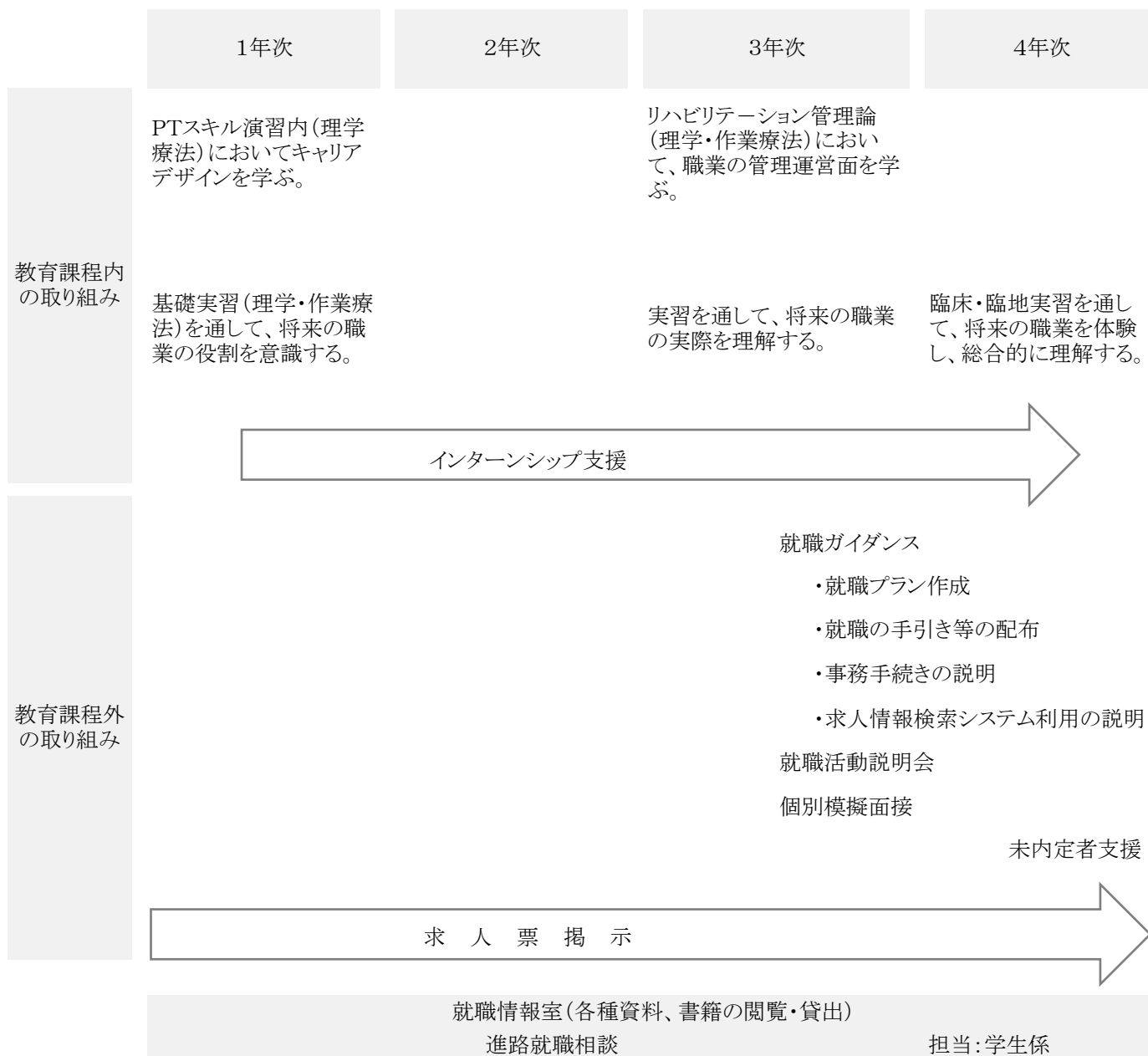
第10条 この規程の改廃は、理事会の承認事項とする。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

【資料55: キャリア支援の概要】

<キャリア支援体制>



<シラバス 抜粋>

PTスキル I 演習(キャリアデザイン)

理学療法学という学問を学んだ社会人として、どのように社会に貢献し、どのように生きるかについて考えることを目的に、様々な理学療法士のキャリアについて情報収集し、プレゼンテーションを行う。また、得られた情報から自らのキャリアをデザインし、目標につながるのある科目について理解を深める。

1. 理学療法士の社会における役割について理解し、自らのキャリアをデザインできる
2. 必要な情報を収集して、取捨選択し、まとめる能力を身につける
3. まとめた情報をわかりやすくプレゼンテーションする能力を身につける
4. 他者と円滑に協働作業できるコミュニケーション能力を身につける

リハビリテーション管理論

適切なリハビリテーションの提供には、リハビリテーション技術の質向上だけでなく、技術を効率的に運用するための基盤である管理・運営(マネジメント)の視点が求められる。技術運用の基盤には、関連法律・制度の知識、組織のあり方や部門運営や人事などを含めた広い意味での経営的発想が必要になる。本講義では、そのような意味での管理・運営に関する基本的な視点を教授する。

1. 組織の管理・運営についての基本的な視点を説明できる。
2. リハビリテーション過程の管理・運営について説明できる。
3. 職能団体組織の役割機能と課題について説明できる。
4. リハビリテーション業務に関連する法律・制度について説明できる。

【資料 56:就職委員会規程(案)】

福岡国際医療福祉大学 就職委員会規程 (案)

(設置)

第1条 福岡国際医療福祉大学学則第 17 条に基づき、本学に就職委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本学学生の就職に関するデータの収集、掲示、進路指導及び就職試験対策講座の運営等を行うことにより、学生に対する就職の支援を適切かつ円滑に遂行するものとする。

(委員会の構成)

第3条 委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学部長の意見を聴いて学長が指名する各学科の専任教員
- 二 学生事務主管課の長
- 三 学長が指名した者
- 四 理事長が推薦した者

2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の中から学長が指名する。

2 委員会は、委員長がこれを招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(委員会の成立)

第5条 委員会は、過半数の委員の出席により成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務処理)

第7条 委員会の事務は、事務部が取り扱う。

(雑則)

第8条 委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て学長が別に定める。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、理事会の承認事項とする。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。